

2018 年度 総合研究所特別研究員 研究活動報告

氏名	飯田 隆夫
研究テーマ	山岳信仰における神仏と参詣地の研究—近世山岳御師論として—
研究概要	一山史研究の博論「山岳信仰における神仏と参詣地の研究—相模大山を事例に—」を、大山寺縁起の比較考証、大山御師の成立と組織、大山講の発生と隆盛、幕末半世紀における御師の思想行動、関東諸山岳御師との比較検討、明治維新以後の御師と講社規則などを中心に、近世における山岳御師論として研究を深化させる。

1. 研究活動の概要と研究成果	<p>①博論の発展的研究—近世の山岳御師身分論</p> <p>研究題目に御師身分論を掲げ、その概要として6項目を提示したが、明治維新以後の課題は下記2.-①のように具体化した。近世の身分論に関係する「大山御師の成立と組織」、幕末の「幕末半世紀における御師の思想と行動」は「関東諸山岳御師との比較」が具体的に進まず未達成である。</p> <p>研究を進める過程で「大山縁起の比較考証」は徳川幕府の寺社政策と関わること、「大山講の発生と隆盛」には木太刀奉納が庶民層に侵透する習俗の先駆けと捉えられこの検討が不可欠であること、の2点が御師身分論の前提であり優先すべき課題と整理した。</p> <p>②廃絶された大山寺再興に関する検討</p> <p>慶應4年3月、神仏分離により廃寺となった大山寺が明治18年に不動堂として再興されたが、この再興要因を御師・寺僧・麓民らの関係から分析、検討を進めた。</p>
2. 学術論文・学会発表等	<p>①論文：「明治期における廃寺復興—相模大山寺—」、『佛教大学総合研究所紀要』第26号、佛教大学総合研究所、2019年3月。</p> <p>②史料紹介：「春日社祢宜富田光美と相模国寒川神社—明治前期の神道国教化をめぐる人事—」、『放送大学日本史学論叢』第6号、2019年3月。</p>
3. 競争的資金への応募と採択	<p>研究課題「山岳参詣における木太刀奉納習俗と大山御師の身分形成過程の調査研究」、科研費（若手研究）採択、研究期間：2019年4月-2022年3月。</p>
4. 今後の課題	<p>①大山寺縁起流布の背景：大山寺の近世縁起写本は、『徳川実記』などから寛永年間の徳川家光治世時の寺社造営と密接に関係し、幕府の寺社政策との視点を入れた近世縁起流布の検討を進める。</p> <p>②木太刀奉納習俗の発生過程：この習俗は大山信仰の庶民層への浸透に関わる現象で伊勢・大山参りの華美禁止令（慶安元年）や正保元年～寛文8年の刀剣取締令を視野に入れた検討を進める。</p>